

## 引き鶴

松下幹生

沼で戯むる 鶴の群れ  
寒空に吐く 白い息  
遠くに響く 啼き声が  
郷里(さと)に帰ると 知らすべく  
私の胸を 締め付ける  
あなたはここを 旅立って  
家族の元へ 引き上げる  
わかっているも 袖噛む私

沼の氷が 薄らうと  
北の空向け 立つ支度  
永い旅路を 休まずに  
引く瀬見事に 列をなし  
別れを惜しむ 啼き声に  
北のあの里 帰りゆく  
北の空には 誰が待つ  
明日はあなたの 暮らせる街に

北に向かって 飛び立って  
一度振り向く 引き鶴は  
襟足引かれ 去りがたく  
来秋にまた 戻り来て  
夏の間 隙間埋む  
その為の春 迎え来て  
北に帰れる 引き鶴は  
涙を見せず 背中で愁う